

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 19日は、低気圧が日本の東を進み、前線が大陸から本州南岸付近にのびる。
- 20日から21日は、前線は東・西日本付近に停滞し、前線上を低気圧が進む。オホーツク海の高気圧が日本海に張り出す。
- 22日から23日は、高気圧が千島近海に移動し、前線は本州南岸付近に停滞する。

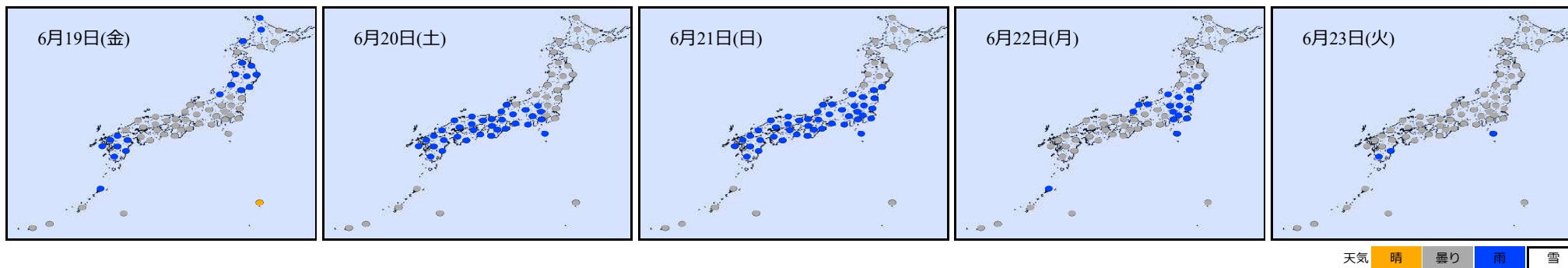
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 20日頃は、西日本では前線や暖かく湿った空気の影響で大雨となり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

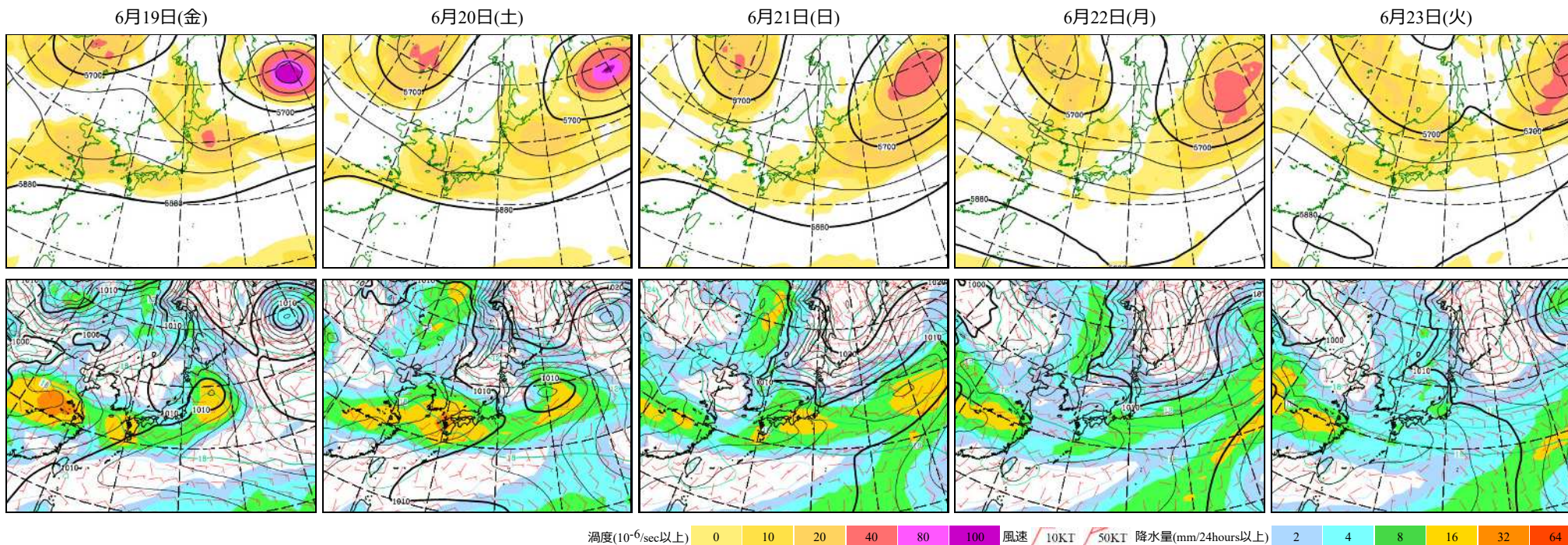
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

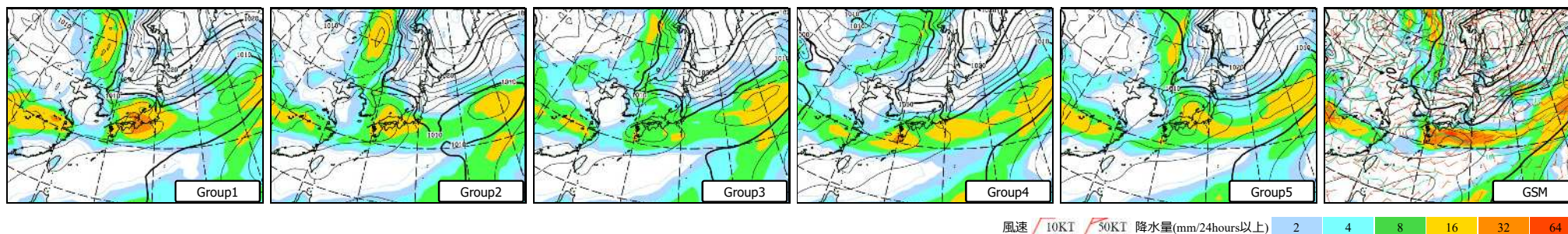


- 北日本から西日本にかけては、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、19日と22日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月21日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、19日に日本の東に進むトラフは深くなり、22日にかけて日本の東にトラフが留まる予想になった。20日から22日にかけてリッジが沿海州からサハリン付近にゆっくり進み、オホーツク海の高気圧が強まる予想になった。
- 各モデルともに、カムチャツカ半島の南付近の寒冷渦とバイカル湖の東付近の寒冷渦の動きが遅くなり、日本付近のトラフ、リッジの初期値変わりが大きくなっている。熱帯じょう乱が弱まる傾向で、GSMとNCEPは5880m線の北への張り出しが弱まった。
- GSMは、初期値変わりが大きく、21日に日本海に進む低気圧の予想がなくなった。ENSはGSMに近いメンバーが多いが、日本海に低気圧を進むメンバーを1割程度含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- FEFE19では、23日の雨域を北日本から西日本に広く予想しているが、他のモデルの予想を参考に縮小する。